

エコアクション21

環境活動レポート



ブタクサ



葛 (クズ)

環境と化学のコーディネーター

ソーダニツカ株式会社

本社: 東京

支店: 札幌 仙台 名古屋 大阪 広島 高松 福岡

目 次

ご挨拶	1
1. 事業の概要	2
2. ソーダニッカ（株）の環境管理組織	3
3. 環境方針	5
4. 環境目標（2015 年度）の達成状況と今後の対応	6
5. 環境目標（2016 年度）	7
6. 2015 年度の環境活動	9
(1) 取組み実績の推移	9
(2) 電力消費量の削減	11
大野ケミカルセンターにおける太陽光発電量	
(3) 廃棄物排出量の削減	11
エコキャップ回収活動	
(4) 化学物質の管理	12
i) PRTR 法該当化学物質	
ii) ケミカルセンターの化学物質	
iii) ケミカルセンターの防災訓練	
(5) 営業部門の環境貢献活動	14
i) 太陽光発電パネルの販売取組み	
ii) 環境関連商品の販売取組み	
(6) 地域の環境保全活動（2015 年度）	18
各事業所の環境保全活動への参加	
(7) その他の環境活動	19
エコ検定（環境社会検定試験）合格者数	
(8) 環境経営マニュアルの主な変更点	20
7. 環境関連法規等の遵守状況（最近 3 年）	21
8. 代表者による全体の評価と見直し	22
9. エコアクションの取組みの経緯	23
10. 表紙の写真	23

ご挨拶

現在、世界的に環境問題がクローズアップされており、環境を無視して会社経営は考えられません。「環境と化学をコーディネートし、社会に貢献する」を標榜する当社としては、地域社会を含めた全ての皆様の信頼を得るために、環境保全に力を入れて活動していく所存です。



ソーダニッカ株式会社は、1947年の設立以来、ソーダ製品をはじめ無機・有機薬品、石油化学製品、合成樹脂製品などを取扱う化学品専門商社として長年にわたり国内産業界の発展をサポートしてまいりました。

全国をカバーするネットワークの構築により、仕入先、販売先から厚い信頼をいただく一方、か性ソーダなどの主力製品の安定供給をより確かなものにする目的から全国4ヶ所にケミカルセンターを設けております。

化学品は人々の生活を支えるあらゆる産業と深く関わっており、当社は基礎原料から、時代の変化とともに産み出される多機能な新素材まで幅広い商品を取扱っております。

常に最新の情報を先取りし、積極的な提案や商品・サービスを提供すること、また環境対策にも積極的に取組むことで社会に貢献することが、当社に課せられた使命だと受け止めております。

21世紀に入り経済のグローバル化は一段と進み、それに呼応するように国内の産業構造も大きく変化してきました。一方、人々の生活を豊かにしてきた文化は、天然資源を枯渇させ、二酸化炭素排出による地球温暖化という負の課題を派生させ、また国内では東日本大震災に起因した原発問題から将来のエネルギー問題が大きな課題となっております。

このような時代背景の中で、当社は国内では輸入品を含めた化学製品の販売をコア事業とし、太陽光発電ビジネスを中心とした環境関連製品を戦略商品に位置付けて成長を目指します。また巨大化するアジア市場を視野に中国・アセアン地域を中心とした営業展開を進めてまいります。

近年、社会の多様化とともに企業の社会的責任が問われるようになりました。当社は、コンプライアンス経営と環境配慮活動を積極的に推進することにより、あらゆるステークホルダーの信頼に応えていく方針です。

代表取締役社長 長洲 崇彦

1. 事業の概要

企 表 者	ソーダニッカ株式会社 URL: http://www.sodanikka.co.jp
本社所在地	東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 5F
代 表 者	代表取締役社長 長洲 崇彦
創 立	1947 年 4 月 1 日
資 本 金	37 億 6,250 万円 (2016 年 4 月 1 日現在) (東京証券取引所 第一部上場)

◆環境責任者及び環境担当者

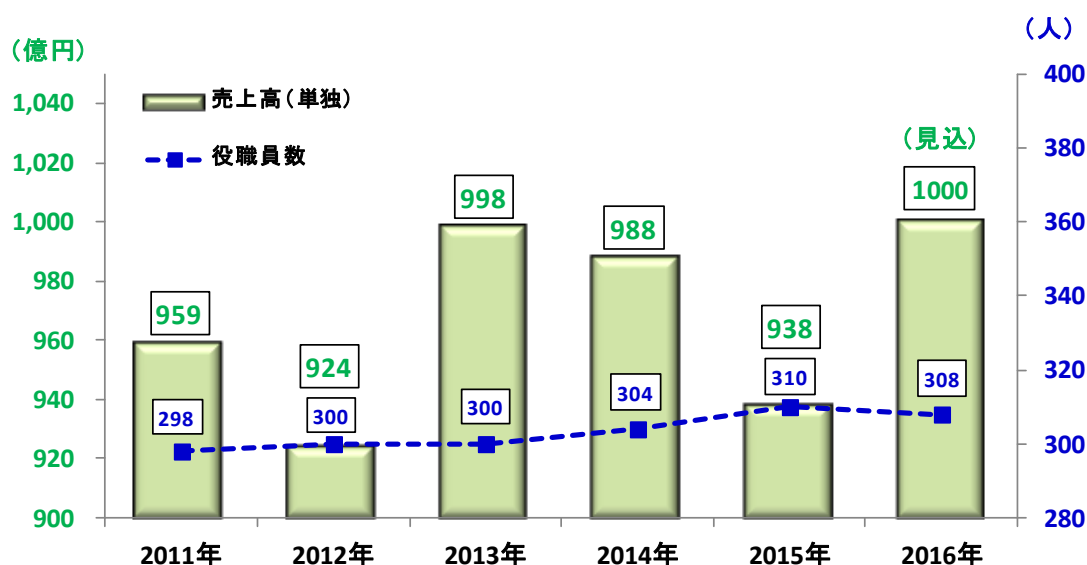
環境責任者	執行役員 総務部門長 増澤 茂
担当部署	ソーダニッカ EMS 委員会 事務局
環境担当者	高橋 誠 (事務局・担当)
連絡先	電話(代):03-3245-1802 FAX:03-3241-3709

主な事業内容

化学工業薬品・石油化学製品・電子材料・合成樹脂及び加工製品・各種機器容器等の売買及びこれに伴う製造、化学工業設備・同機器の設計製作及び施工。

また主力化学品については、国内 4 ヶ所に物流拠点としてケミカルセンターを有し、輸送の合理化及び取引先への安定供給を目的に、サプライチェーン・ネットワークを構築。

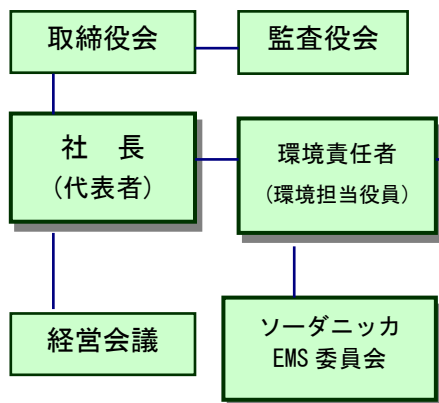
事業規模(売上高と役職員数の推移)(2016年3月31日現在)



2. ソーダニッカ㈱の環境管理組織

※G：グループ

2016 年度（2016 年 4 月 1 日現在）



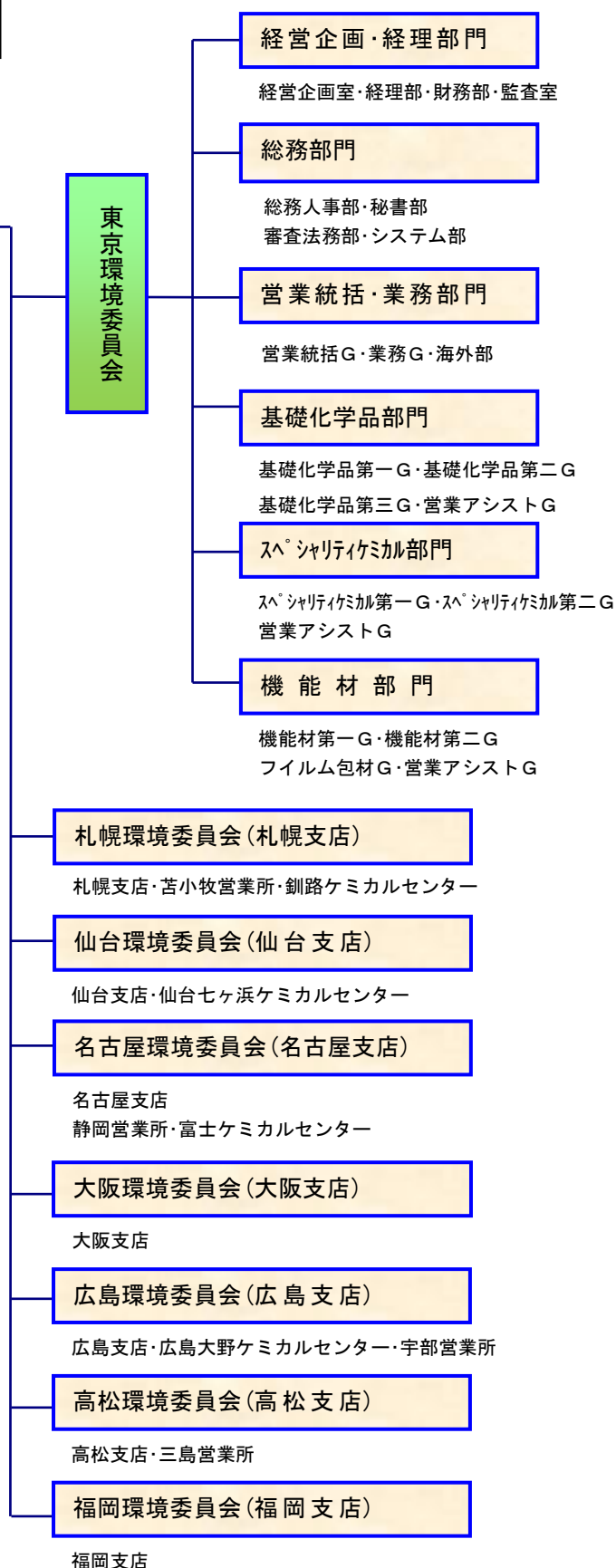
内部環境監査制度

所定の研修を受講し、試験に合格した者の中から社長に任命された監査員が担当する。

内部環境監査要領により各部門（支店を含む 13 部門）ごとに年 1 回以上実施する。

監査員は、社長、環境責任者の直轄となっている。

東京環境委員会は、本社 6 部門の集合体とし、各部門の目標及び本社全体の目標達成に向けて連携していく。



◆エコアクション 21 認証登録の対象範囲

◆事業規模（2016 年 4 月 1 日現在）

1. オフィス

	床面積 (㎡)	役職員数 (人)
本社 (東京)	2,014	180
札幌支店	271	11
苫小牧営業所	116	4
仙台支店	182	10
名古屋支店	255	12
静岡営業所	179	8
大阪支店	446	27
広島支店	143	11
宇部営業所	129	5
高松支店	235	11
三島営業所	166	4
福岡支店	334	12
合計	4,470	295

※本社の面積は、2013 年 9 月以降

5F ワンフロア化により増加

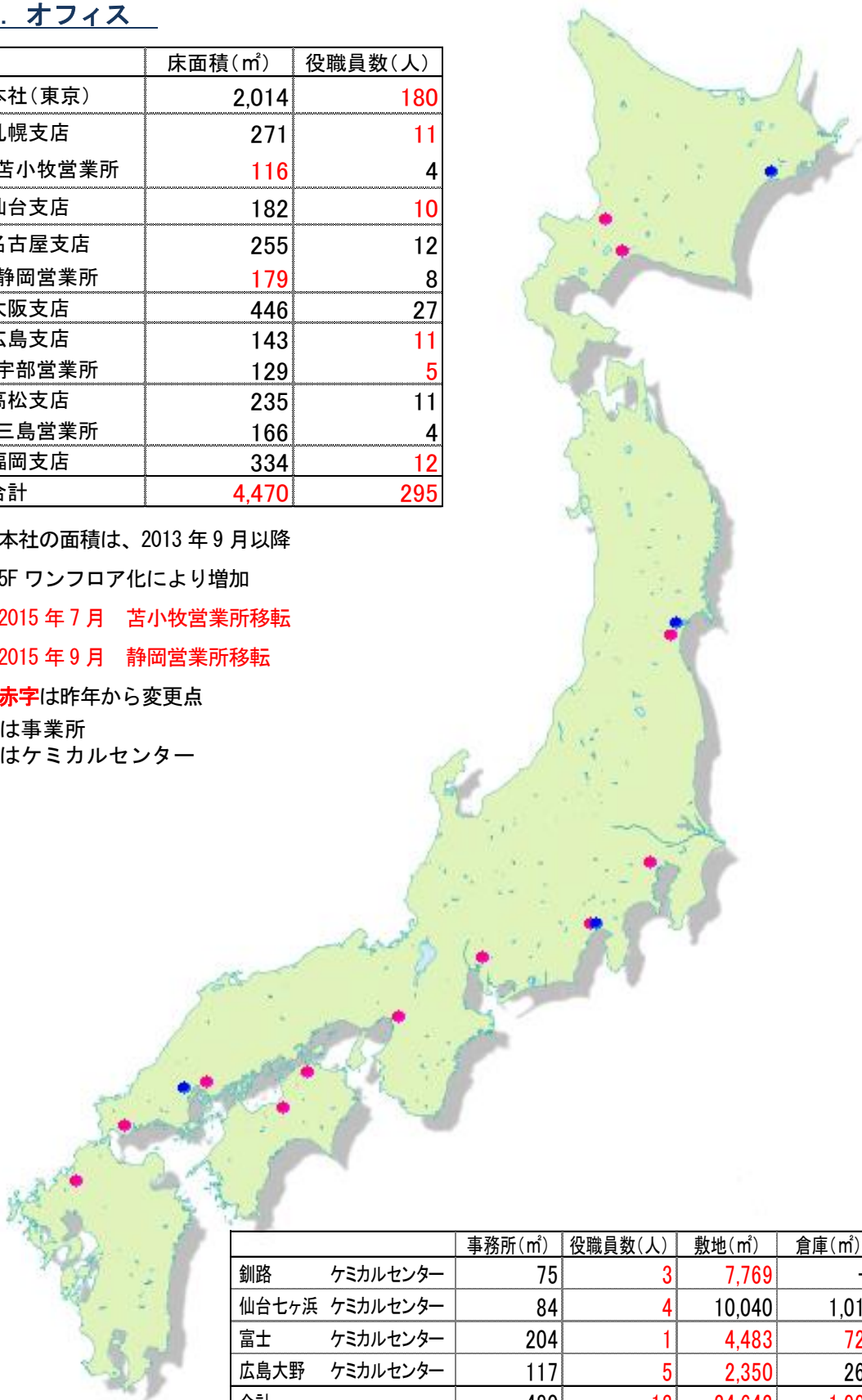
※2015 年 7 月 苫小牧営業所移転

※2015 年 9 月 静岡営業所移転

※赤字は昨年から変更点

●は事業所

●はケミカルセンター



	事務所 (㎡)	役職員数 (人)	敷地 (㎡)	倉庫 (㎡)
釧路 ケミカルセンター	75	3	7,769	—
仙台七ヶ浜 ケミカルセンター	84	4	10,040	1,011
富士 ケミカルセンター	204	1	4,483	723
広島大野 ケミカルセンター	117	5	2,350	264
合計	480	13	24,642	1,998

3. 環境方針

企業理念に基づく環境経営基本方針

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業にたずさわっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給策として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』に『社会に貢献する』企業でありつづけるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題と位置づける。

環 境 方 針

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

1. 事業活動を通じた地球環境保護への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的且つ継続的に取り組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ケミカルセンターにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

2. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、新エネルギー等の活用、グリーン購入に取り組めます。

3. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

4. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

5. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境活動レポート』に取りまとめて公表します。

2012年5月2日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役社長 長洲 崇彦

4. 環境目標(2015年度)の達成状況と今後の対応

取組み項目	単位	基準年度	年度目標	実 績	達成状況	今後の対応
		2010年度	2015年度	2015年度	取組み結果	2016年度目標
二酸化炭素 排出量の削減	t-CO ₂	483.2	468.7 (-3.0%)	469.3 (-2.9%)	×	取組み継続
					数値目標未達成	各事業所ごとに2014年度比 で目標を設定する。
電力消費量の 削減	kWh	640,415	621,203 (-3.0%)	618,547 (-3.4%)	○	取組み継続
					2014年8月より本社のエコデー を1日から2日/月に増やしたこと により、数値目標達成。	各事業所ごとに2014年度比 で目標を設定する。
ガソリン消費量 の削減	ℓ	48,562	47,105 (-3.0%)	42,739 (-12.0%)	○	取組み継続
					ハイブリット車導入以降も、公共交 通機関等の利用促進とエコドライ ブの啓蒙活動により、数値目標達 成。	各事業所ごとに2014年度比 で目標を設定する。
紙使用量の削減	kg	8,919	8,651 (-3.0%)	9,478 (+6.3%)	×	・紙ベースでの資料配布、コ ピーの削減。 ・資料配布、コピー時に紙出 力の必要の有無を事前に確 認するとともに、データ参照と 保管を促す。 ・集約・両面コピーの推進。 ・作成資料、報告書の1枚ベ スト運動の推進。 ・全店会議、エコリーダー会議 等での紙削減周知。
					裏紙在庫の不足状態が続き、数 値目標未達。	各事業所ごとに2014年度比 で目標を設定する。
廃棄物排出量の 削減(紙+プラ)	kg	1)再資源化に努め、排出量は 前年を越えないこと。 (2014年実績:17,843)		18,525	×	取組み継続
		2)エコキャップ回収活動を推 進する。			数値目標未達成	
節水と排水管理	m ³	《生活水》 前年度を越えないこと (2014年実績 1,098)		963	○	修理済
		《排 水》 現状把握を行なう (2014年実績 1,086)			919	—
						—
					—	現状把握を行なう
グリーン購入の 取組み	—	グリーン調達ガイドラインに則り、環境配慮型製 品を使用する。			○	購入率を把握する
					グリーン調達ガイドラインに則 り、環境配慮型製品を使用し た。	印刷物、事務用箋、封筒、 名刺等は環境配慮型製品 を使用し、それぞれその旨 を明記する。
化学物質の管理	—	社内規程に則った作業手順、保守管理基準、 防災マニュアルにより、安全と環境保全に努 め、ケミカルセンターにおける災害発生を未然 に防止する。			○	取組み継続
					ケミカルセンターは、毎月の安全 会議・年1回の防災訓練で安全 管理を行なった。本社及びケ ミカルセンターの関係者で、年1 回の全国物流管理者会議を開 催し、事故防止に努めた。	
営業部門の 環境貢献活動	—	1)3Rの推進及び新エネルギー等の活用を積 極的に提案する。 2)環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努 める。 3)取組み内容を環境活動レポートにて公表す る。 4)PRTR法該当化学物質の年間販売量を把握 する。			○	取組み継続
					太陽光パネルの販売は順調に 推移した。	
地域の環境 保全活動	—	環境保全に係るボランティア活動等に参加し、 地域社会との共生を推進する。			○	取組み継続
					全事業所で環境活動に参加した。	
その他の 環境活動	—	環境啓蒙活動の一環でエコ検定の受験を推奨 する。			○	取組み継続
					エコ検定に7名合格した。	

※二酸化炭素排出係数は、2007年度の各電力会社の数値及び「EA21ガイドライン2009年版」の数値を使用しています。

※「ガソリン消費量の削減」には、フォークリフト分を含んでいません。

5. 環境目標(2016 年度)

1. 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 全事業所より排出する二酸化炭素は、各事業所ごとに 2014 年度比で 2016 年度の目標を設定する。
- ・ 別途 2018 年度までの中期目標を設定する。

2. 紙使用量削減

- ・ 紙使用量(コピー、PC 出力用紙)は、各事業所ごとに 2014 年度比で 2016 年度の目標を設定する。用紙は、全事業所、全量環境配慮型製品とする。
- ・ 別途 2018 年度までの中期目標を設定する。

3. 廃棄物削減と分別回収

- ・ 排出する一般ゴミは、地域自治体等の回収区分により分別し、再資源化、廃棄物総量の削減に努める。
 - (1) 排出する紙資源は種類ごとに計量し、リサイクルに供する。
 - (2) 機密を含む長期保存書類は、100%リサイクルに供する。
 - (3) プラスチック類は計量し、リサイクル可能なものは選別しリサイクルに供する。

4. 節水と排水管理

- (1) 賃貸ビルにおいては、ビル管理会社等と協力して“節水、取組みを具体的に推進する。
- (2) ケミカルセンターにおいては、製品希釈用水と生活水を区分して管理し、生活水については前年数量を上回らない。
- (3) ケミカルセンターにおいては、水質汚濁防止法の特定施設に適用される基準を自主基準として管理し、排水量を把握する。

5. グリーン購入

- ・ 印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を使用し、それぞれその旨を明記する。

6. 化学物質の管理

- ・ 化学物質の取扱いにあたっては、社内規程に則った作業手順、保守管理基準、防災マニュアルにより安全と環境保全に努め、ケミカルセンターにおける災害発生を未然に防止する。

7. 営業部門の環境貢献活動

- ・ 営業活動を通して地球環境保全に貢献するために、化学分野における 3R 推進及び新エネルギー等の活用を積極的に提案するとともに、環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努める。また、取組みについては環境活動レポートで公表する。
化管法・PRTR 法該当化学物質については年間販売量の把握に努める。

8. 地域の環境保全活動への参加

- ・ 当社は、事業所ごとにそれぞれの地域において環境保全に係るボランティア活動等に参加し、地域社会との共生を推進する。

2016年度 環境目標(数値)

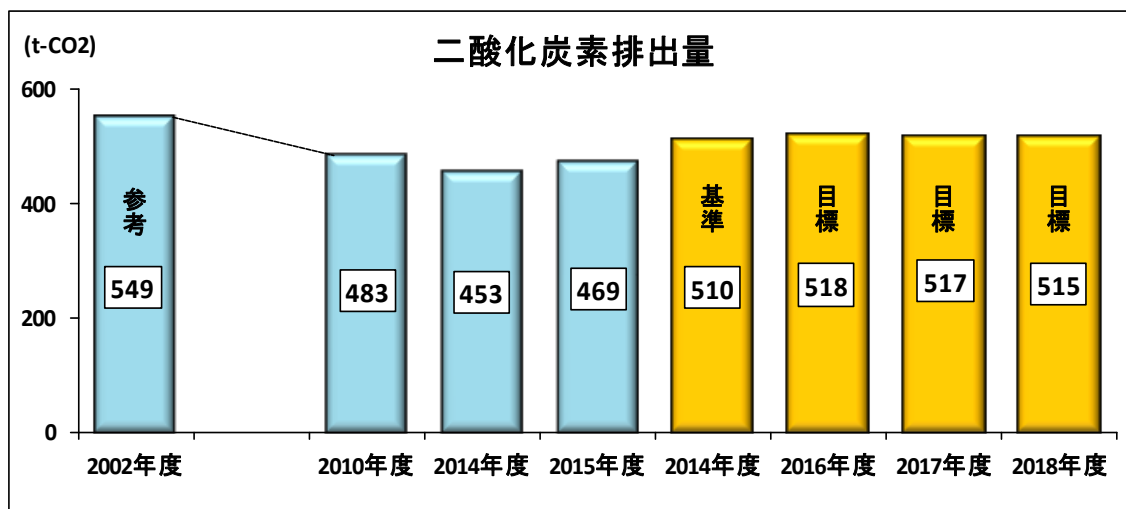
取組項目 事業所名	電力			ガソリン				紙		
	単位: kwh			単位: ℓ(実績)、Km/ℓ(燃費)				単位: kg		
	実績	目標	増減率	実績	目標	増減率		実績	目標	増減率
	2014年度	2016年度	対14年度	2014年度	燃費	2016年度	対14年度	2014年度	2016年度	対14年度
本社	289,574	288,618	-0.33%	5,017	10.3	5,017	±0.00%	6,497	6,497	±0.00%
※1	(202,269)	(201,601)	-0.33%					(5,704)	(5,704)	±0.00%
※1	(87,305)	(87,017)	-0.33%					(792)	(792)	±0.00%
札幌支店	9,735	9,703	-0.33%	7,179	15.7	7,155	-0.33%	340	339	-0.28%
(札幌支店)	(7,038)	(7,015)	-0.33%	(4,847)	13.5	(4,831)	-0.33%	(240)	(239)	-0.28%
(苫小牧営業所)	(2,697)	(2,688)	-0.33%	(2,136)	20.3	(2,129)	-0.33%	(100)	(100)	-0.28%
(釧路ケミカルセンター)				(196)	18.9	(195)	-0.33%			
仙台支店	17,284	17,284	±0.00%	4,514	20.8	4,468	-1.01%	223	223	±0.00%
名古屋支店	44,442	58,443	+31.50%	6,400	19.9	6,400	±0.00%	859	859	±0.00%
(名古屋支店)	(25,517)	(25,433)	-0.33%	(3,123)	20.0	(3,123)	±0.00%	(544)	(544)	±0.00%
(静岡営業所)	(18,925)	(33,010)	+74.42%	(3,277)	18.4	(3,277)	±0.00%	(315)	(315)	±0.00%
大阪支店	24,466	24,466	±0.00%	3,217	19.9	3,185	-0.99%	531	526	-0.94%
広島支店	18,066	18,438	2.06%	4,631	17.4	4,716	1.83%	345	350	+1.54%
(広島支店)	(8,815)	(8,997)	2.06%	(2,878)	19.1	(2,931)	1.83%	(197)	(200)	+1.54%
(宇部営業所)	(9,251)	(9,441)	2.06%	(1,753)	14.6	(1,785)	1.83%	(148)	(150)	+1.54%
高松支店	19,790	19,750	-0.20%	7,453	19.5	7,416	-0.50%	226	226	±0.00%
(高松支店)	(13,034)	(13,008)	-0.20%	(6,083)	19.6	(6,053)	-0.50%	(189)	(189)	±0.00%
(三島営業所)	(6,756)	(6,742)	-0.20%	(1,370)	18.9	(1,363)	-0.50%	(37)	(37)	±0.00%
福岡支店	10,961	10,925	-0.33%	3,769	16.7	3,769	±0.00%	352	352	±0.0%
オフィス計	434,318	447,627	+3.06%	42,180	17.5	42,126	-0.13%	9,373	9,372	+0.00%
◆ケミカルセンター ※2										
釧路ケミカルセンター	48,708	48,547	-0.33%					14	14	-0.28%
仙台七ヶ浜ケミカルセンター	55,331	55,331	±0.00%	540		535	-1.01%	25	25	±0.00%
富士ケミカルセンター	2,345	4,090	+74.42%	365		365	±0.00%			
広島大野ケミカルセンター	60,713	61,962	+2.06%	770		784	1.83%	44	45	+1.54%
ケミカルセンター計	167,097	169,930	+1.70%	1,675		1,684	+0.52%	83	84	+1.20%
全社計	601,415	617,557	+2.68%	43,855		43,810	-0.10%	9,456	9,456	±0.00%

※1. 本社電力 上段: オフィス、下段: 空調 本社紙 上段: コピー用紙、下段: システム用紙

※2. ケミカルセンターのガソリン使用量(フォークリフト)

6. 2015 年度の環境活動

(1) 取組み実績の推移



※2002 年度は当社が EMS 委員会を発足させ、EA21 認証登録に向けた作業を開始した年です。

2015 年度 二酸化炭素排出量＝事務所＋ケミカルセンター

- ・事務所： 割合 (62.6%) 293.6 t-CO₂ -4.8% (2010 年度比)
- ・ケミカルセンター： 割合 (37.4%) 175.7 t-CO₂ +0.2% (2010 年度比)

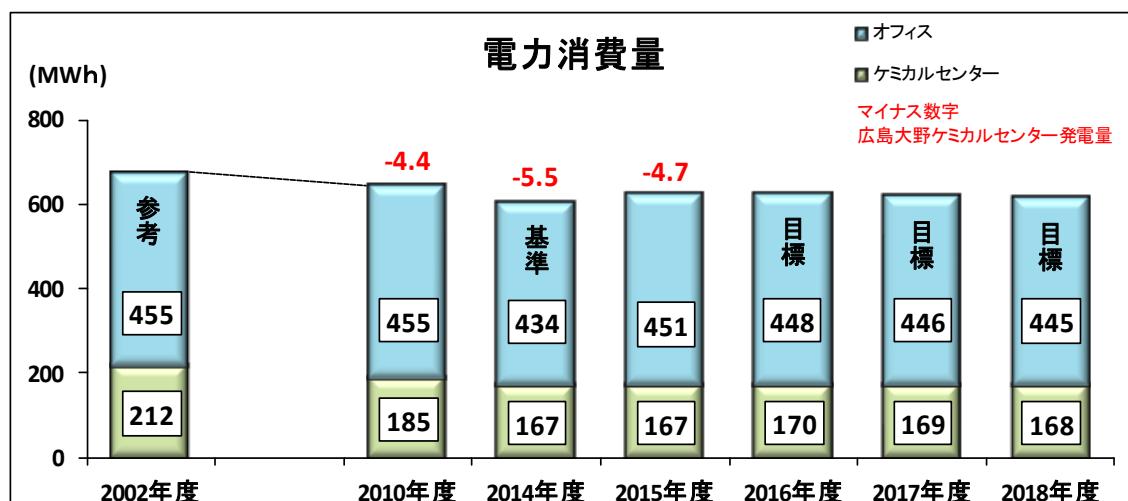
※ 上記■のグラフ 2010 年度～2015 年度の値は、広島大野ケミカルセンター太陽光発電による二酸化炭素削減分を差し引いた数値となります。

※ 上記グラフの二酸化炭素排出係数(電力消費量分)について(単位:Kg-CO₂/kWh)

- ・■グラフ 2010 年度～2015 年度 (2007 年 CO₂ 排出係数を使用して計算)
- ・■グラフ 2014 年度(基準)、2016～2018 年度(目標) (2014 年 CO₂ 排出係数を使用して計算)

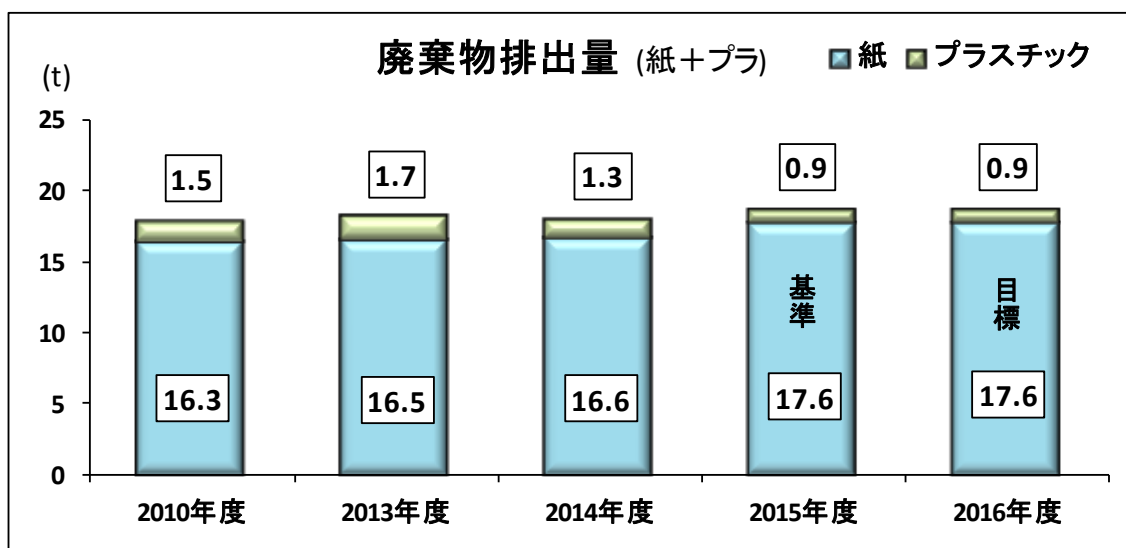
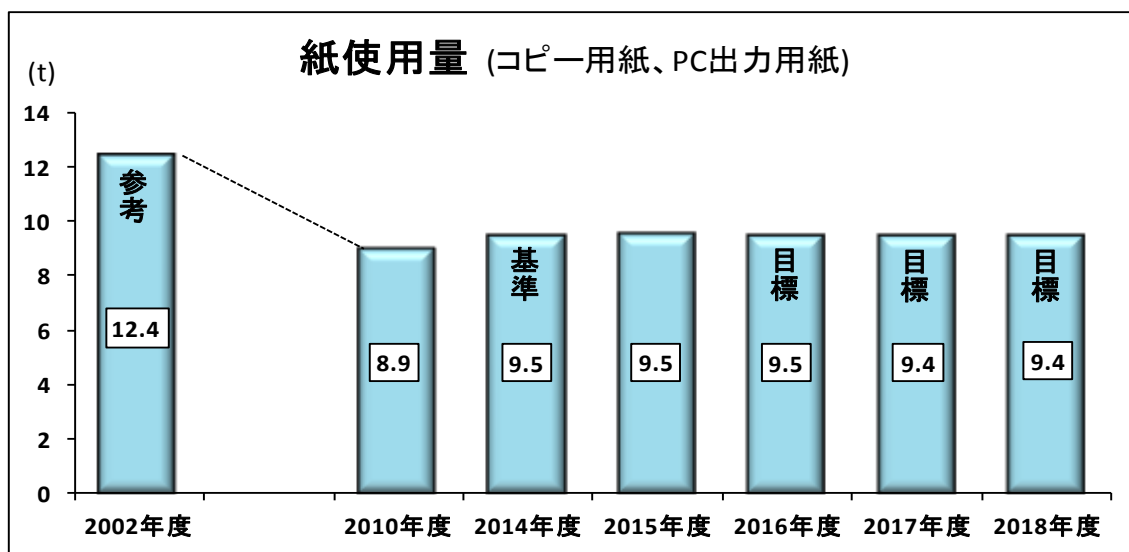
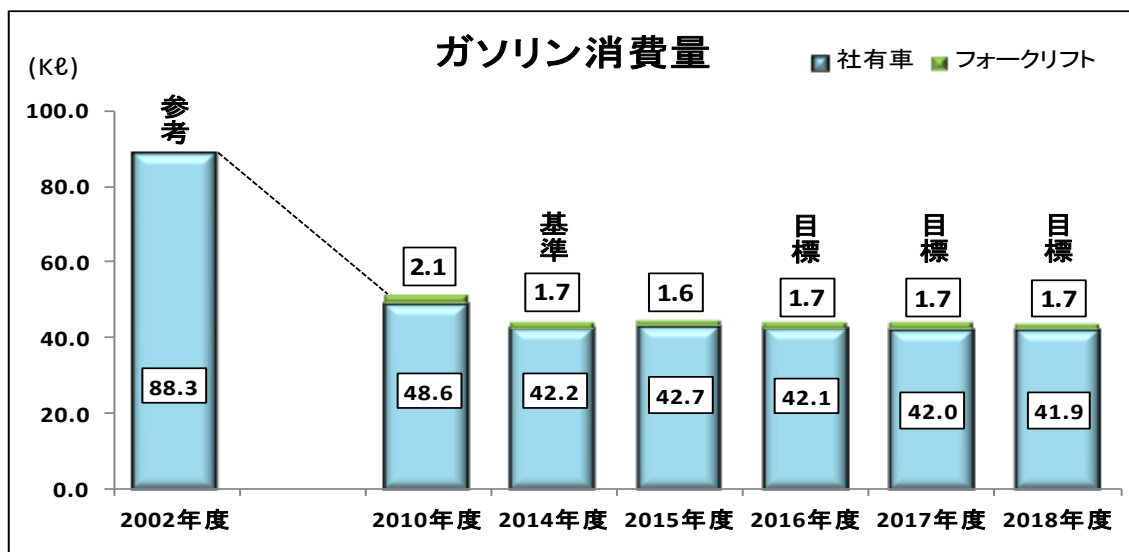
電力会社	2007 年係数	2014 年係数	電力会社	2007 年係数	2014 年係数
北海道電力	0.517	0.683	関西電力	0.366	0.531
東北電力	0.473	0.571	中国電力	0.677	0.706
東京電力	0.425	0.505	四国電力	0.392	0.676
中部電力	0.470	0.497	九州電力	0.387	0.584

他石油製品の CO₂ 排出係数は、「EA21 ガイドライン 2009 年版」の数値を使用しています。



2015 年度 電力消費量 = 事務所 + ケミカルセンター

- ・事務所 (割合 73.0%) 451.4MWh -0.9% (2010 年度比)
- ・ケミカルセンター (割合 27.0%) 167.1MWh -9.7% (2010 年度比)



2015 年度 資源ゴミ排出量

- ・紙資源(割合 95.0%) 17.6 t +6.1% (2014 年度比)
- ・プラスチック(割合 5.0%) 0.9 t -26.3% (2014 年度比)

(2) 電力消費量の削減

広島大野ケミカルセンターにおける太陽光発電量 (2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

- ・累計発電量 : 4,652kWh (CO2 換算量 : 3.1t-CO2)
- ・累計売電量 : 1,939kWh (CO2 換算量 : 1.3t-CO2)
- ・CO2 排出係数 0.677t-CO2/kWh (2007 年)



- 【設置】2010 年 5 月末日
- 【場所】広島大野ケミカルセンター
(広島県廿日市市)
- 【能力】4.59kW
- 【製品】ソーラーフロンティア(株)製 CIS 系
- 【電力会社】中国電力(株)

(3) 廃棄物排出量の削減

エコキャップ回収 (医療支援・障害者支援の寄付実施)

- ・累積収集数 : 59,488 個 (2016 年 1 月 13 日現在)
- ・焼却した場合の CO2 発生量に換算すると、436 kg になります。
- ・2015 年 8 月にエコキャップ推進協会によって、ブータン・ヘルス信託基金(ブータン王国政府が WHO 本部の承認を受け正式に発足させた)に「予防医療支援」として寄付を実施した。

エコキャップ回収ボックス (本社)



回収したエコキャップ



(4) 化学物質の管理

i) PRTR 法該当化学物質

2015 年度の排出実績はありませんでした。

2015 年度の販売量を把握しました。

・ PRTR 法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」
(平成 11 年法律第 86 号)※化管法

・ 該当化学物質：第一種 462 物質、第二種 100 物質

※「エコアクション 21 ガイドライン 2009 年版」による。

【結果】

- ・ 第一種指定化学物質：86 物質が該当 (462 物質中) 昨年度より 3 物質減
- ・ 第二種指定化学物質：3 物質が該当 (100 物質中) 昨年度と同じ
- ・ 販売量：公表しておりません。

ii) ケミカルセンターの化学物質

ケミカルセンター（物流基地）

当社は毒劇物*1)の船受け可能な物流基地を全国 4ヶ所(釧路、仙台七ヶ浜、富士、広島大野)に設置し、全国の物流ネットワークを構築しております。

安全面に関しても構内や輸送上での事故防止のため、定期的な安全会議や防災訓練
全国物流管理者会議を実施して、安全管理教育の徹底を図っています。

*1) 毒劇物：「毒物及び劇物取締法」で規制される毒性や腐食性が強い化学物質

ケミカルセンターで扱う主な化学品を紹介いたします。

一般家庭ではあまり馴染みがありませんが、産業界ではよく使用される薬品です。

<か性ソーダ>

無色の強アルカリ性液体です。食塩水を電気分解して製造される。

主な用途：化学繊維、製紙、パルプ、化学薬品、食品工業、石鹼

<塩 酸>

塩化水素の水溶液です。酸性が強く、多くの金属を溶解し、塩化物を作る。

主な用途：化学薬品、アミノ酸、グルタミン酸ソーダ、酸洗用

<硫 酸>

無色の酸性の液体です。

主な用途：肥料原料、化学繊維、化学薬品、金属製錬

iii) ケミカルセンターの防災訓練

仙台七ヶ浜ケミカルセンター 2015 年 9 月 29 日 (火) 実施

出席者：8 名

想定：地震発生時の対応(震度 5 強を想定)

対処：地震発生 → 各バルブ等の閉鎖(揺れがおさまった後) → ローリー出荷場付近の漏れ等を確認 → センター人員の避難 → 各設備の緊急点検 → 報告・反省会



富士ケミカルセンター 2015 年 10 月 7 日 (水) 実施

出席者：12 名

想定：南海トラフ巨大地震による避難訓練と初期消火訓練

内容：避難訓練(机の下へ避難、火の元確認等)、初期消火訓練(防火皿と消火器を使用)

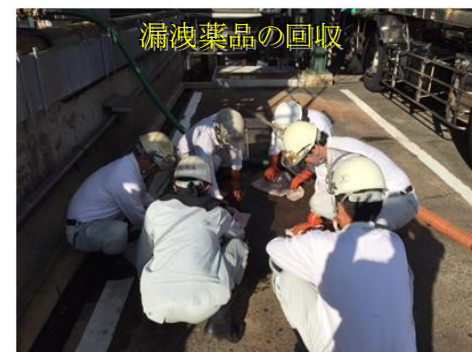


広島大野ケミカルセンター 2015 年 9 月 18 日 (金) 実施

出席者：12 名

想定：か性ソーダ納品、輸送、広島大野ケミカルセンター場内での漏洩

対処：状況把握 → 元弁閉止 → 各所へ通報 → 二次災害防止 → 薬品回収



(5) 営業部門の環境貢献活動

i) 太陽光発電パネルの販売取組み

《販売製品》

ソーラーフロンティア株式会社 製 C I S 太陽電池モジュール

《特徴》

- ①高温・影に強く「実発電量(kWh/kW；設置システム規模あたりの発電量)」が高い。
- ②国内一貫生産の安心品質。宮崎工場に続き、東北工場も稼働開始。
- ③国内メーカー最長クラスの出力保証 20 年間を標準装備。

《取組みの推移》

2009 年度： 販売取組み開始
2010 年度： 5 月に広島大野ケミカルセンターに実証用 4.59kW の太陽光発電パネルを設置。
2011 年度： 販売強化、実績化進展。
2012 年度： 第 3 四半期より販売が本格化。
2013 年度： 発電事業者の旺盛な需要により販売量増加。
2014 年度： 前年度より販売総容量は減少。引続き買取制度(再エネ特措法)の効果により、多数成約。
2015 年度： 販売総容量は前年度とほぼ同等の案件が成約。(期間：2015 年 4 月～2016 年 3 月)
2016 年度： 優遇されていた産業用買取価格が改変され 24 円/kw となった。
販売量減を見込んでいるが、別途、環境関連商品への展開を検討。

産業用買取価格の推移(20 年固定、消費税別、パネル出力：10kw 以上)

・2012 年度：40 円/kw ・2013 年度：36 円/kw ・2014 年度：32 円/kw
・2015 年度(4 月～6 月)：29 円/kw ・2015 年度(7 月～3 月)：27 円/kw ・2016 年度：24 円/kw

買取価格・期間等(参考)：経済産業省 資源エネルギー庁 ホームページ

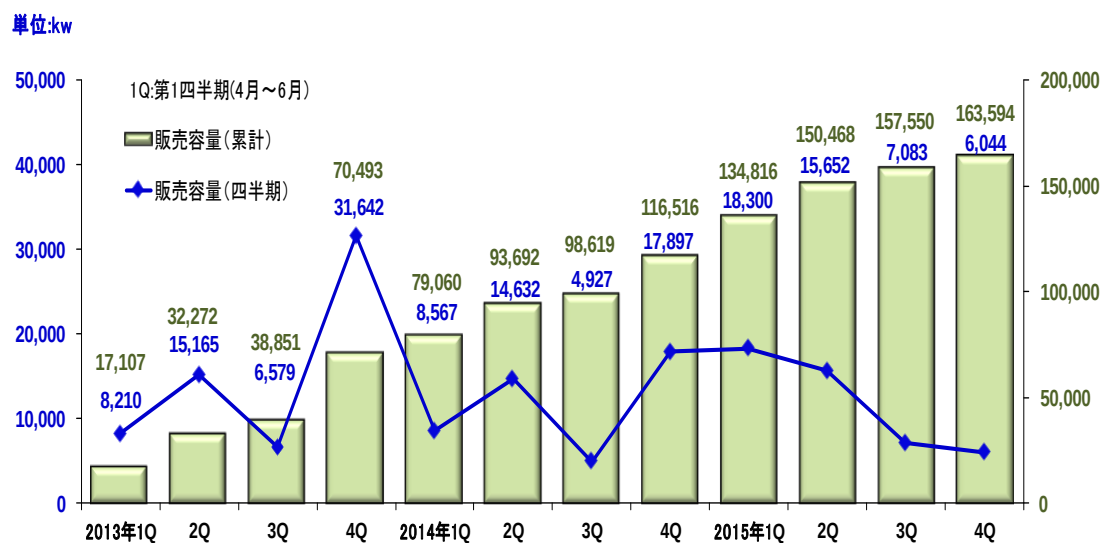
URL：http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/kakaku.html

《2015 年度の実績例》



施主様：株式会社いずみや
納入月：2015 年 3 月
引渡し月：2015 年 11 月
場所：千葉県香取市
設置容量：54.81kW(SF145-W×378 枚)
施工会社：東伸工業株式会社

四半期別 太陽光発電パネル販売容量推移



ii) 環境関連商品の販売取組み

主な取組みは以下の通りです。

- a) 環境への効果
- b) 商品名他
- c) 提案概要等

①副生品の有効利用

* 副生品ストックポイント



- a) 廃棄物、CO2 削減
- b) 副生品分離／濃縮装置
- c)
 - ・ 廃棄物削減
 - ・ 廃棄用中和剤の削減
 - ・ 副生品再使用による純正品の使用量削減
 - ・ 純正品納入の帰り便を活用しての副生品引取

* 副生品の利用例：塩化アルミ、硫酸バンド、硝酸アルミ他

②プラスチック製の折りたたみコンテナ



- a) リユース・CO2 削減
- b) コンボライフ
- c) ・災害時の飲料水等供給（内袋の再使用可）
 - ・食品、飲料、化粧品、洗剤、ケミカル製品等の輸送、保管において金属製品と比較し軽量化、減容が図れる為、輸送効率化による省エネ

③蒸気漏れ防止部品



- a) CO2 削減
- b) スチーム Z
- c) 蒸気管中の凝縮水排水時の蒸気漏れ防止

④潤滑油の再生装置



- a) 廃棄物削減
- b) 静電浄油機
- c) ・潤滑油の酸化変質物、水分の除去による
可使期間延長
 - ・機器への酸化変質物の付着防止による
可使時間延長

⑤大気汚染防止装置



- a) 大気汚染防止
- b) テクセルスクラパー
- c) 排ガス処理

⑥減圧蒸留装置



- a) 廃棄物削減、資源再利用
- b) Take-減
- c) 廃液、汚泥の減容、有価物回収

⑦その他

- ・ 輸送ロットアップによる CO2 削減
(缶→ドラム、ドラム→タンクローリー、タンクローリー→トレーラー・ISO コンテナ等)
- ・ 高強度ドラム缶(薄肉化)
- ・ 高強度フィルム(薄肉化)
- ・ 排水処理薬品
- ・ 再生溶剤
- ・ VOC 低減溶剤
- ・ 温暖化防止溶剤
- ・ オゾン層保護溶剤
- ・ ECO ゴミ袋

商品に関するお問合せはお客様担当者、又は以下にご連絡をお願い申し上げます。
当該担当部署の担当者を紹介させていただきます。

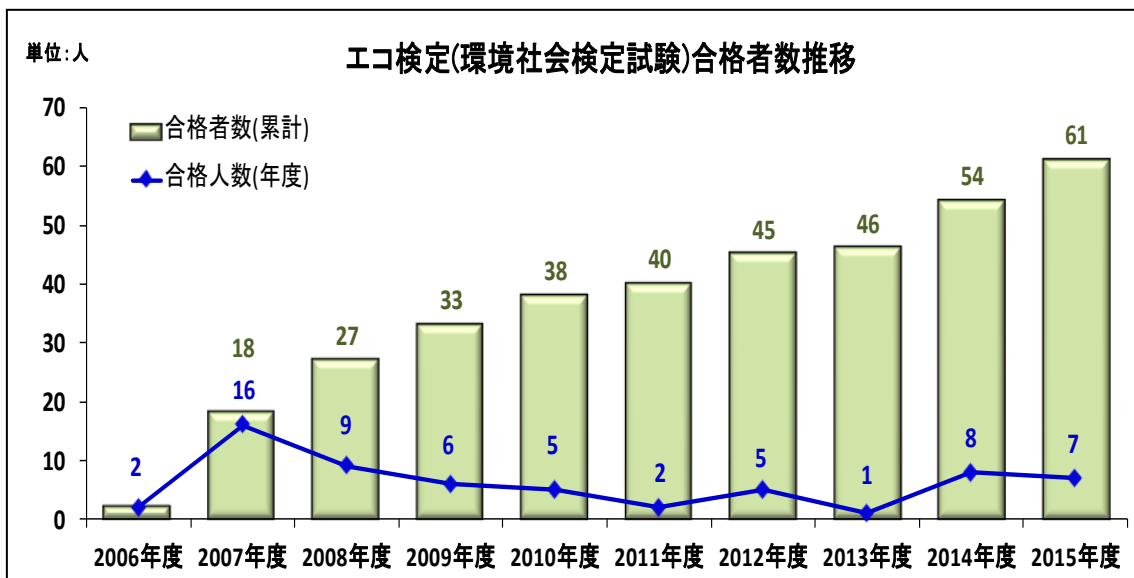
お問合せ先 : ソーダニッカ 株式会社
EMS 委員会事務局: 高橋 誠 (事務局・担当)
電話: 03-3245-1806 FAX: 03-3241-3709
〒103-8322
東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント
E-mail : mk-takahashi@sodanikka.co.jp

(6) 地域の環境保全活動（2015 年度）
各事業所の環境保全活動への参加

本社：まちかどクリーンデー 毎月 10 日 年 12 回実施	札幌支店：ラブアースクリーンUP in 北海道 2015 年 6 月 14 日(日)
	
仙台支店：第 20 回 広瀬川 1 万人プロジェクト 2015 年 9 月 26 日(土)	静岡営業所：田子の浦みなと祭り会場の清掃活動 2015 年 7 月 12 日(日)
	
大阪支店：大阪マラソンクリーン UP 作戦 2015 年 10 月 19 日(月)	広島支店：クリーン活動 2015 年 11 月 12 日(木)
	
高松支店：高松中央通り一斉清掃 2016 年 3 月 3 日(木)	福岡支店：「ラブアース・クリーンアップ 2015」 2015 年 6 月 7 日(日)
	

宇部営業所：リフレッシュ瀬戸内海岸清掃活動 2015年6月14日(日)	三島営業所：四国中央市クリーンデー 2015年7月5日(日)
 	 

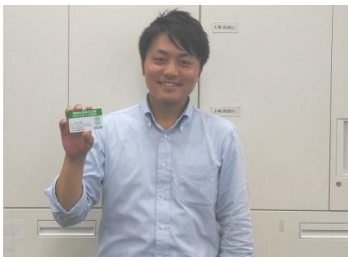
(7) その他の環境活動



当社は、第1回試験(2006年10月15日)より61名の合格者を輩出しています。

2015年度の合格者(7名)の紹介

本社：小西さん 参考書と問題集を見た瞬間、後悔。 何とか合格できました。	仙台支店：伊藤さん 将来の子供たちのために！	本社：鹿野さん 受かってホッとしました。 エコって難しい！
		

本社：山中さん これで私もエコピーパー！ 	札幌支店：廣田さん 合格できてよかったです！ 	本社：山下さん カードが欲しい方は是非受験を！ 
本社：渡辺さん I' m ECO people. 	2016 年度もエコ検定合格に 向け邁進してまいります。 	

(8) 環境経営マニュアルの主な変更点

- ① 組織変更に伴い、本社を改組した。名古屋支店に静岡営業所、広島支店に宇部営業所を移管したことにより改組し体制を見直した。
- ② 二酸化炭素排出量、紙使用量削減目標については、基準を 2014 年度とし、全社目標から部門毎に設定した。
- ③ 「関係する法律等の要求事項遵守状況チェックリスト」の労働安全衛生法にストレスチェック事項を追加した。

7. 環境関連法規等の遵守状況(最近3年)

「環境関連法規」については、「ecoBRAIN」*1で法律の改訂内容を確認し「法令遵守状況チェックリスト」を更新し、各部門は6月に遵守状況を確認しました。

(*1:「ecoBRAIN」第一法規(株)の「ネット環境法令管理システム」)

【違反等】違反行為、行政等からの指導、苦情及び訴訟は全くありませんでした。

【主に当社に該当する環境法令集】

法令	目的
<u>＜ケミカルセンター関係＞</u> [大気汚染防止法] [水質汚濁防止法] [廃棄物処理法] [労働安全衛生法] [消防法] [毒物劇物取締法] [海洋汚染防止法]	ばい煙の発生 有害物質の排出、浸透防止、漏洩事故時の報告 廃棄物の処理 役職員の健康と安全確保、化学物質の取扱い 建物防災、危険物の保管管理、消防活動阻害物質管理 毒物劇物の製造・保管管理、安全輸送 船受入時汚染防止、有害物質貯蔵設備の管理
<u>＜営業関係＞</u> [毒物劇物取締法] [高圧ガス保安法] [消防法] [化管法] (PRTR法) [化審法]	毒物劇物の輸送・販売 高圧ガスの輸送・販売 危険物の輸送 SDS(安全データシート)の配布 新規物質の販売
<u>＜輸入関係＞</u> [毒物劇物取締法] [化審法]	毒物劇物輸送時の安全・標記 一般化学物質等の輸入数量の把握・報告
<u>＜総務関係＞</u> [労働安全衛生法] [健康増進法]	役職員の健康と安全確保 事務所内分煙
<u>＜全社関係＞</u> [省エネルギー法]	エネルギー使用の効率化(当社非該当)

【2016年度登録簿への追加及び項目追加】

新たに追加した法令はありません。

【2015年度登録簿から削除】

新たに削除した項目はありません。

8. 代表者による全体の評価と見直し

『社長による全体の評価』

電力消費量は、エコデー^{*1}を増やしたことによる効果もあり減少した。ガソリン消費量は、公共交通機関等の利用促進とエコドライブ啓蒙活動の継続により減少した。電力・ガソリン・紙の削減については、事業の拡大に伴い、今以上の大幅な削減は困難と考えられ、会社全体での思い切った施策が必要となる。

目標値については、各事業所ごとに2014年度比で2016～2018年度の目標を設定することにした。

外部監査の「指導事項」であるグリーン購入については、現状の購入率の把握を行なうこととする。内部環境監査の方法を見直して4年目になるが、今までと変わらない高いレベルでの環境活動の維持管理を継続していく。

（*1：本社では、毎月第2第3水曜日にノー残業デーを行っています。）

『社長による見直しと指示事項』

- | | |
|-------------|---|
| ・ 環境方針 | 変更なし。 |
| ・ 実施体制 | 部門長・環境担当者・環境委員を新たに任命する。ケミカルセンターの環境関連書類については、引き続き各支店で管理することにする。 |
| ・ 環境経営マニュアル | 内部環境監査の結果は「不適合事項：0」はなく、今後も実査と書類監査を交互に実施していくことにする。なお、引き続き取組みの簡略化を検討していくこと。 |
| ・ 環境活動レポート | 環境関係商品の取組みで太陽光発電パネルについては、グラフ等を使用して、販売量の推移を分かり易く記載すること。又、その他の取組みも記載すること。環境営業活動については、数値化は行なわなくて良いが、実績の上がった新規商品の商品名を記録していくこと。
グリーン購入については、購入率の把握を行なうこと。 |
| ・ 環境目標 | 新たな目標として、2014年度を基準年度とし2016年度及び3ヵ年計画をたてること。又、目標数字は従来の会社全体の数値から事業所ごとに目標を設定すること。
紙使用量は事業拡大に向けての施策及び広報活動等の積極的取組み等で削減ができていないが、今一度、全役職員が細かな点まで取組みを見直し削減を図っていくこと。 |

9. エコアクションの取組みの経緯

当社が2006年3月にエコアクション21に全社認証登録されてから11年目を迎えました。

《当社の取組みの歴史》

2002年 5月	EMS 準備委員会発足
2003年 8月	パイロット事業に本社参加
2004年 10月	本社 認証取得
2006年 3月	全社統合 認証取得
2016年 3月	全社統合 認証更新(直近、2年毎に更新)

10. 表紙の写真

「ブタクサ(命名は諸説あり)」と聞いただけでアレルギー反応をおこされる方はご容赦下さい。「葛(クズ)」は葛餅のおいしいイメージが浮かばれる方や、緑化に有効、雑草で面倒と思われる方がいらっしゃるかと思います。

ここで取上げさせていただいた「ブタクサ」は日本に輸入された木材に付着し入ってきた外来種でススキの生態系を脅かす存在となっておりましたが、自らが持つ毒性や密生、養分不足等で衰退し、今ではススキの原野に戻る傾向にあるようです。一方、「クズ」は緑化や土壌の流出防止、飼料等を目的として海外で導入され、その機能は果たしているようですが、他の植物の成長を妨げているとの報告もあるようです。

「生物多様性」。皆様、一度はお耳にされたかと思います。それには「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」があります。これらを世界的に保全していく活動の為に1992年に「生物多様性条約」がつくられ、翌年に日本は条約を締結し世界では193カ国が加盟しております。この保全とは、様々な生物が相互の関係を保ちながら、本来の生息環境の中で繁殖を続けている状態を意味するようです。

ここで取上げさせていただきましたことを例に、この取組みは非常に複雑であると感じました。

環境活動レポート(2016年版)

発行 2016年9月1日

ソーダニッカ株式会社 EMS委員会

〒103-8322 東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント

電話(代): 03-3245-1802 FAX 03-3245-3709

URL: <http://www.sodanikka.co.jp>

人に、自然に、やさしい環境を
化学のチカラによって
明るく未来を創造します。

人に美しい自然を子供たちに
残すため、私たちは
人と環境との調和を
化学の多様性を駆使し、
チャレンジしてまいります。



ソーダニッカ株式会社

東京都中央区日本橋 3-6-2

URL: <http://www.sodanikka.co.jp>